（別紙様式３）

令和４年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　島根県松江市殿町１番地
管理機関名　　島根県教育委員会
代表者名　　野　津　建　二

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和４年４月１日（契約締結日）　～　令和４年３月３１日

２　指定校名・類型

学校名　　島根県立隠岐島前高等学校
学校長名　　井筒　秀明
類型　　グローカル型

３　研究開発名

離島発「グローカル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

４　研究開発概要

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設している
・教育課程の特例の活用　　活用していない

６　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
藤井　千春 （運営指導委員長）	学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	本構想全般および研究開発全般に係る指導・助言
山下　一也	公立大学法人島根県立大学 学長代行	地域との協働およびカリキュラムに係る指導・助言
市川　力	一般社団法人みつかる・わかる 代表理事	地域に根ざした探究学習のあり方に係る指導・助言

阿部　裕志	株式会社風と土と 代表 海士町教育委員教育長代行 隠岐國商工会理事	地域産業との連携に係る指導・助言
ｱｯｼｭ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ｱﾚｸｻﾝﾀﾞｰ	西ノ島町教育委員会 外国語指導助手	隠岐島前三町村連携及び国際連携に係る指導・助言

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
島根県教育委員会	教育長　　野津　建二
島根県立隠岐島前高等学校	校長　　井筒　秀明
公立大学法人島根県立大学	学長　　清原　正義
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	代表理事　　大江　和彦
隠岐國学習センター	センター長　　竹内　俊博
一般財団法人地域・魅力化プラットフォーム	理事・会長　　水谷　智之
海士町　（教育委員会）	町長　　大江　和彦 教育長　　平木　千秋
西ノ島町（教育委員会）	町長　　升谷　健 教育長　　扇谷　就二
知夫村　（教育委員会）	村長　　平木　伴佳 教育長　　渡部　真也

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	奥田 麻依子	（一財）地域･教育魅力化プラットフォーム／地域教育魅力化コーディネーター	非常勤

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				1回								1回
コンソーシアム構築・運営支援	教育庁各課横断の伴走											
探究学習推進	研修① 担当者設定		ミニ研修①			ミニ研修②				ミニ研修③	発表会 研修②③	
	探究指導主事の伴走											

コーディネーター研修		研修①	研修②③		研修④			研修⑤⑥		研修⑦		
高校魅力化評価システムによる調査・検証	研修①		調査	フィードバック	活用研修②		活用事例共有					
						各校の検証、県担当者の伴走						
人員配置												配置決定
							予算要求					

（２）実績の説明

①運営指導委員会の開催・授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
運営指導員会の実施			１回									１回
授業への参加			１回									２回
成果発表会への参加・助言												１回
事業の広報		１回						１回				１回

②体制支援・活動支援

コンソーシアム構築・運営支援	４箇所の先導モデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県 1/2）
探究学習推進	令和２年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校１名設定し研修を実施（必修３回、希望者３回、助言支援随時）。探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンラインでの実施）。その他、年間を通じて探究学習の推進に係る助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネート機能の研修を実施。
高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。結果を基に校内研修を実施している学校の事例発表を含めた、グランドデザイン実現に向けた PDCA 構築のための教職員研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をＲ３年度は 15 名配置、Ｒ４年度は３名増員。さらに、Ｒ３年度は高大連携を推進する職員を３名配置。

③事業終了後の自走を見据えた取組について

・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の教育魅力化推進チームの伴走体制の強化による学校・コンソーシアムへの支援の継続
・学校と地域が協働して取り組む PBL 型研修の実施による、各コンソーシアムの主体的取組への推進支援
・令和３年度末にすべての高校でコンソーシアムが構築。令和４年度からは学校運営協議会制度を導入し、一体的に運用することで、法的権限を持った組織として機能強化
・すべての教職員が活用できるよう ICT 環境の整備と研修を実施
・探究学習推進担当者を中心とした探究的な学びについての質の向上研修の継続
・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究を継続、知見を共有
・探究学習や教育課程開発を推進する教職員や教育魅力化コーディネーターの配置、養成・確保・育成
・各校が作成したグランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進。「高校魅力化評価システム」等を活用した PDCA サイクルの構築と活用研修の実施

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
⑴ グローカルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施		5/25	6/16 6/30	7/1 7/7 7/8				11/9		1/17		3/14 3/15
⑵ 国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施				7/26 ～28	8/5 ～8				12/23	1/29	2/11	
⑶ 地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施		5/26				9/16 9/23	10/7 10/14					3/15
⑷「伴走者フォーラム」の実施								11/2				3/14

（２）実績の説明

①グローカルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施

今年度は下表のとおり、グローカルに課題解決に挑む講師を招聘して授業を実施した。授業内の講話はもちろんのこと、講話後には様々な課題解決に取り組む生徒らから個別に質問する機会もいただいた。また、３月に実施した「探究学習成果発表会」では運営指導委員の皆様やゲスト講師としてお越しいただく方々にもご参加いただき、探究学習に対するフィードバックやコメントをいただいた。

いずれの授業でも、本気で挑戦する大人からいい刺激を受け、個々で取り組むマイプロジェクトへとつなげる生徒が複数みられた。

日程	講演者	所属	活動領域と活動タイトル
5月25日	井上由貴 氏	（株）隠岐牛企画	夢探究Ⅲ 「大人の実践者から学ぶ」
	青山達哉 氏	海士町役場人づくり課	
	増谷実香 氏	海士町役場地産地消課	
	井上太陽 氏	SUN in サイエンス（理科実験教室）	
	佐川菜々子 氏	隠岐島前高校図書館司書	
	佐川洋介 氏	（株）風と土と（トヨタ自動車に在籍）	
	濱中裕代 氏	隠岐國学習センター、あまマーレ	
	野澤知子 氏	株式会社ラボ・非営利型一般社団法人ありがとう地球	
	吉田公三 氏	菱浦郵便局	
	升谷圭吾 氏	国賀荘	
6月16日	三島秀威 氏	西ノ島町教育委員会	夢探究Ⅰ 「島前人間探究」
	高智　康 氏	知夫村役場地域振興課	
	濱中香理 氏	海士町役場人づくり課	
	小山亜理沙 氏	隠岐デジタルラボ	
	小金井菜都 氏	知夫村教育委員会	
	福田貴之 氏	NPO法人　しぜんむら	
6月30日	堀口正裕 氏	（株）第一プログレス	地域地球学 「TURNS堀口正裕氏と考える地域とのつながり方・伝え方」
7月1日	久保英士 氏	独立行政法人国際協力機構（JICA）	夢探究Ⅰ 「島前人間探究」
	近藤弘志 氏	有限会社まつのや	
	余島睦美 氏	するだわい	
7月7日	小松成美 氏	ノンフィクション作家	キャリア講演会
7月8日	市川　力 氏	一般財団法人　みつかる＋わかる	夢探究Ⅰ 「自分の中の雑を集める」
	波多 努　氏	海士町観光協会	夢探究Ⅰ ゲストトーク「ゆさぶれ観光」
	和泉ちをり 氏	和泉荘	
	安達和良 氏	養蜂家（西ノ島町）	夢探究Ⅰ ゲストトーク「なぜ西ノ島町のミツバチは復活したのか？」
	柴田照輝 氏	養蜂家（西ノ島町）	
	敷　正彦 氏	知夫村教育委員会	夢探究Ⅰ ゲストトーク「知夫の畜産」
	吉村栄典 氏	住職・島前高校スクールカウンセラー	夢探究Ⅰ ゲストトーク「リラックス」
11月9日	岩本　悠 氏	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	学校行事（研修旅行） キャリア講演会「越境」
	税所篤快 氏	e-Education創業者	

	小松成美 氏	ノンフィクション作家	学校行事（研修旅行） キャリア講演会
1月 17 日	田畑　陽 氏	隠岐國商工会	夢探究Ⅰ 「大人の実践者から学ぶ」
	大村浩之 氏	デロイトトーマツコンサルティング合同会社デジタルカスタマー	
	青山達哉 氏	海士町役場人づくり課	
	松浦道仁 氏	焼火神社　宮司	
	笹原風花 氏	ライター・編集者	
	小山亜理沙 氏	隠岐デジタルラボ	
	井出風之介 氏	大学生（卒業生）	
	山口結衣 氏	大学生（卒業生）	
	川本息生 氏	JA しまね知夫支店	
	吉元翔太 氏	海士町役場半官半Ｘ課	
	岡部有美子 氏	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	
3 月 14 日 ~~（予定）~~	藤井千春 氏	学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院	学校行事 探究学習成果発表会
	市川　力 氏	般財団法人　みつかる＋わかる	
	松浦道仁 氏	焼火神社　宮司	
	宮本浩治 氏	岡山大学大学院教育科学研究科	
	水谷智之 氏	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	
	奥田麻依子 氏	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	
3 月 15 日 ~~（予定）~~	熊平美香 氏	一般社団法人 21 世紀学び研究所	夢探究Ⅰ・Ⅱ 「より効果的なリフレクション」

②国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、第２学年が全員で行く「シンガポール海外研修」の代替として、島根県内でグローカルに触れるプログラムへと変更した。島根県内のローカルを探究しながら、一方で立命館アジア太平洋大学の協力なども得ながらグローバルを体感することで、シンガポールに行った時と同じような「越境体験」を構築することができた。

「グローバル探究（ブータン）」では芸術文化の継承等をテーマとして、選抜された４人の生徒が探究活動を、５月から２月にかけて行った。ブータンの方々との複数回のオンライン交流やインタビューを行い、８月に実施した宿泊型のフィールドワークでは和紙の技術移転でブータンと関係の深い浜田市を訪問するなど、島前地域で行ってきた探究をさらに深める機会となった。

「グローバル探究（ミクロネシア）」では地域医療をテーマとして、選抜された４人の生徒が探究活動を、５月から２月にかけて行った。ミクロネシアの方々との複数回のオンライン交流やインタビューを行うとともに、隠岐島前病院の取組など身近な地域医療に関する先

進事例を学びながら、同じ離島環境にあるミクロネシアと島前地域との共通課題に対しての探究を進めた。また７月に実施した宿泊型のフィールドツアーでは、雲南市のコミュニティナースなどの取組を視察し、県内の先進事例も学びながら考察を深めた。

シンガポール海外研修代替研修の内容は以下のとおり。

	活動	ねらい
11 月 8 日 （月）	＜午前：移動＞ ＜午後：オリエンテーション＞ （1）研修旅行の目的、行程の確認 （2）プレゼンテーションのリハーサル	研修旅行の目的を理解する
11 月 9 日 （火）	＜午前：松江市内での英語プレゼンテーション＞ (1) オンラインコメンテーター 立命館アジア太平洋大学の外国人留学生 30 名 ＜午後：松江市内での講演会/対話会＞ （1）対面ゲスト 岩本　悠 氏（地域教育魅力化プラットフォーム） 税所篤快 氏（NPO 法人 e-Education 創業者） （２）オンラインゲスト 小松成美 氏（ノンフィクション作家）	グローバルの視点からこれまでの探究活動や自分自身を見つめ直す
11 月 10 日 （水）	＜午前：奥出雲町自然・文化体験研修＞ 「鬼の舌震」、「たたらと刀剣館」 ＜午後：奥出雲町体験プログラム（選択型）＞ （1）蕎麦打ち体験 （2）豆腐づくり体験 （3）座禅体験 （4）バターづくり体験 （5）畳づくり体験	島根県のローカルの魅力を五感で味わい再発見する
11 月 11 日 （木）	＜午前：出雲市内 Feel℃Walk＞ （1）出雲神社参拝 （2）班別行動 ＜午後：振り返り＞ （1）４日間で印象に残った経験 （2）今後に生かしたい学び	探究的視点で観光地を散策し、互いの気づきや発見を共有するとともに、学年全体の関係の質を深め、４日間の学びをまとめる
11 月 12 日 （金）	＜午前：移動＞ ＜午後：解散＞	

③地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

今年度の新たな取組としては、昨年度構築した「地域未来探究」の枠組みを継承・発展させ、狙いを絞った教育プログラムの開発を行ったことに加え、教科シラバスに「学習内容と日常生活との関連及び活用が期待される場面」を明記させることにより、教科（科目）間のクロス・カリキュラムが行いやすい環境を整理した。また、主幹教諭・探究学習推進担当者・学校魅力化コーディネーターによる「地域未来探究推進チーム」を編成し、クロス・カリキュラムの計画・実施を推進した。

第１学年に実施する「夢探究Ⅰ（総合的な探究の時間）」と各教科横断で実施した「地域未

来探究」では、隠岐島前地域を題材に取り上げ、担当する教科・科目の視点を活かしながら、「仮説の設定」または「検証方法の考察」に的を絞った教育プログラムを開発し、実践した。実践した内容は下表のとおり。

	学習テーマ	関係教科・科目	関係地域
①	海士町における新しい観光とは？	地理・歴史×数学	海士町
②	ニホンミツバチの復活	外国語×家庭	西ノ島町
③	なぜ知夫村の牧畑は衰退したのか？	国語×数学	知夫村
④	癒し	国語×保健・体育	

④「伴走者フォーラム」の実施

「地域未来探究」の取組を題材にし、島内外の教育関係者と学び合う機会とするオンラインイベントを 11 月 2 日に開催した。当日は県内外から約５０名の参加者とともに、探究的な授業の実施について議論を深めた。本校の取組事例の発表の後、参加者からは

・地域（社会）と学校の連携をいかに進めるか。
・地域を題材にした教科授業をどのようにつくっていくのか。
・探究の時間や教科の授業、課外活動などの学びをどのように接続していくのか。
・学校一丸で探究を行う雰囲気をどうつくるか。
・教科横断の授業を組み立てるアイデアの生み出し方のヒントが知りたい。
・「探究的な」とはそもそもどういうことで、どんな要素があれば探究的になるのか。
・生徒の「やらされ感」の払拭。
・教員の探究とはどんなもので、研究とは何が違うのか。

といった質問やコメントが寄せられ、教員同士が所属を超えて学び合う良い機会となった。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

従来取り組んできた「地域未来探究」を継承・発展させ、狙いを絞った教育プログラムの開発を行ったことに加え、教科シラバスに「学習内容と日常生活との関連及び活用が期待される場面」を明記させることにより、教科（科目）間のクロス・カリキュラムが行いやすい環境を整理した事や、主幹教諭・探究学習推進担当者・学校魅力化コーディネーターによる「地域未来探究推進チーム」を編成し、クロス・カリキュラムの計画・実施を推進したことにより、地域課題解決型学習と教科学習のブリッジを含む教科（科目）横断型授業の実践事例が増えたことは、今年度の大きな成果といえる。

島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」の結果により事業取組の成果を分析する。６月に実施した調査結果の概要は次のとおり（表中の数字は肯定的回答の割合を示す）。

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての活動指標	③生徒の自己認識	R2 年度	64.6 %	78.0 %	63.1 %	69.0 %
		R3 年度	**69.2 %**	**79.6 %**	**65.5 %**	**73.7 %**
	④生徒の行動実績	R2 年度	76.4 %	75.0 %	67.5 %	69.2 %
		R3 年度	**78.8 %**	**79.9 %**	**69.8 %**	**70.7 %**

「③生徒の自己認識」については、すべての項目で肯定的回答割合が 72%以上となること目指していたが、「協働性」と「社会性」では上回ったものの、「主体性」と「探究性」では目標に及ばなかった。

「協働性」の個別項目を見てみると、「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる（90.6%）」や「相手の意見を丁寧に聞くことができる（92.8%）」で高い数値が出た。探究活動の中で他者の意見に耳を傾けながら異なる意見を尊重する活動の成果が出たものと考える。

数値が 70%に到達しなかった「主体性」や「探究性」の個別項目を見てみると、「自分にはよいところがあると思う（82.7%）」、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる（72.7%）」、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む（76.7%）」など目標を超えた項目もあったが、「私は自分自身に満足している（54.7%）」という結果から、自分の能力を十分に活かすことができていないと感じる生徒が多いものと推測する。

「社会性」に関わる自己認識は県内他校に比べて肯定的回答割合が高く、校内でも特に１年生の肯定的回答割合が高い。グローカル意識を聞く項目の中でも「地域の課題と世界の課題は関連していると思う（91.2%）」、「将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい（91.2%）」といった高いスコアから、本校の取組の成果が生徒の期待値として現れているものと考える。

「④生徒の行動実績」については、すべての項目で 80%以上となることを目指していたが、昨年度同様、すべての項目で目標を上回ることができなかった。特に「探究性」については数値が低く出ており、中でも「公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした（65.5%）」と課題を残した。その一方で、「授業でわからないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた（80.6%）」、「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた（81.3%）」、「先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした（85.6%）」となっており、他者と関わりながら探究性を深めていくことができる一方で、「なぜ」と問を立てながら、確かな根拠を基に論理的に批判的・論理的にじっくり考える力に課題が残る。

調査結果の傾向は昨年度と大きく変わらないが、「③生徒の自己認識」及び「④生徒の行動実績」ともに「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」いずれのスコアも昨年度より上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響で（オンライン以外で）グローバル要素を取り入れた事業を十分に推進しにくい環境下においても工夫して取り組んだ成果が現れていると分析する。

＜添付資料＞目標設定シート

１２　次年度以降の課題及び改善点

「生徒の自己認識」における「主体性」や「探究性」に係る資質・能力の向上には、生徒・教員双方が「学習のねらいや見通しを立てながら、『なぜ？』の問いを大切にした自己の取組や成果を客観的に分析（振り返り）する」ことが重要となる。次年度以降も引き続き、「地域未来探究」の取組を推進・充実させるとともに、より効果的な「振り返り」手法の開発にも着手したい。

「グローバルとローカルの往還」におけるグローバル要素については、新型コロナウイルス感染症の影響で、積極的な対外交流・活動が実施しにくい状況が続き、「生徒の活動実績」における成果が昨年度同様、十分ではなかった。制約がある中でいかに効果的な活動へつなげていくかという視点のもと、カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、活動に取り組む生徒自身が主体的に計画を立て、実効性のある活動を行えるよう支援するために、教員の伴走の在り方を見直していきたい。

生徒の自己意識および行動実績については数値達成を目指すことはもとより、探究的な学びを

核とした、すべての教育活動で有機的・効果的に取り組むべきことであることを、改めて教職員間で共有し、連携諸機関と足並みをそろえて取り組んでいきたい。

【担当者】

担当課	島根県教育委員会	ＴＥＬ	0852-22-6428
氏　名	吉川　めぐみ	ＦＡＸ	0852-22-6026
職　名	調整監	e-mail	yoshikawa-megumi@edu.pref.shimane.jp